

令和2年度 南アルプス市立若草南小学校 後期自己評価書

南アルプス市立若草南小学校
校長 河野 瑞穂

● 学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校 笑顔あふれる学校

〔育てたい児童像〕 若南プライドをもち、ふるさとを愛する児童
人の痛みがわかる思いやりのある児童

〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める
積極的な活動に取り組む精神・自他の尊重・多様性を認め合う精神
心のやりとりきちんとあいさつ・心を向ける返事・心をそろえるくつそろえ

〔学校経営の重点〕

1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。

- (1) 新学習指導要領の理念をふまえた児童や学校の実態に応じた教育課程の編成
- (2) 幼稚園・保育園・若草小学校・若草中学校との連携を考えた教育課程の編成
- (3) 各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事を含めた特別活動などの横のつながりと異学年間の縦のつながりを考えた効果的な教育課程の編成
- (4) 全教育活動を通じた体系的なキャリア教育の推進
- (5) 学校内外の教育資源の活用と体験学習の充実

2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

- (1) 学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくり
(反復繰り返し学習、市単講師によるTTや少人数指導)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。
(若南スタンダードの定着化、問題解決的な学習展開、見通しと「対話」のある授業づくり)
- (3) 思考力・判断力・表現力を高めるためのコミュニケーション能力の進展

(ICTの利活用, 単元末評価問題の活用, 協働的学習体制の充実, 外国語教育の充実)

(4) 組織的・計画的・継続的な校内研究の充実

(学級づくりと授業実践を中心とした校内研究の推進, 一校一実践・一人一実践の取組)

(5) 家庭学習の習慣化

(家庭学習の手引きの活用, 家庭学習取組強化週間, 主体的に取り組む学びノートの活用)

3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

(1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進

(人権尊重の理念に基づく教育活動, 話の聞き方 認め合い名人・あいづち名人)

(2) 全ての子の居場所のある居心地の良い学級経営の充実

(所属感, 自己有用感, 自己肯定感を持たせる取り組みの工夫, Q-Uの活用, 学校生活アンケートの活用, SOSの出し方に関する教育の実践)

(3) 学校教育全体を通して道徳教育の充実 (考え議論する道徳の推進)

(4) 児童会を中心とした仲間づくり・集団作り

(あいさつ運動, 縦割り班活動, ボランティア活動)

(5) 読書活動・音楽活動の推進

(6) 集団生活のルールやマナーの徹底

(月ごとの生活目標, あいさつ運動, 無言清掃, 全校集会や全校放送の活用, 若南プライド「心のやりとりきちんとあいさつ・心を向ける返事・心をそろえるくつつそろえ」)

4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

(1) 運動の日常化による基礎体力づくり

(体育的行事の計画的実施, 「健康・体力づくり一校一実践運動」の取組)

(2) 粘り強く最後までやり抜く強い意志を育てる指導支援

(体育授業の充実, 粘り強さを大切に学習指導の充実)

(3) 基本的な生活習慣の確立と保健指導の充実, 給食指導を中心に食育の充実

(たよりや掲示物, 学級指導, 保健集会の活用, 給食週間の取組)

5 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。

(1) 児童の実態に応じた特別支援学級の運営

(2) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営

(特別支援学習会の実施, ユニバーサルデザインの活用)

(3) 交流学級・在籍学級の担任, 保護者・関係諸機関との連携を活かした指導支援の充実

(機能的なケース会議開催, 外部の専門機関や関連行政機関との連携, 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用)

(4) サポートルーム若草南のセンター的機能の充実

(校内外のニーズをもつ児童のアセスメント, 教育相談)

6 児童の安全・安心を守り, 家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

(1) 全教職員が「一致協力」, 連携・協働し支え合う教職員組織「チーム若南」

(2) 自らの命は, 自ら守る「危険回避能力」の育成

(地震・火災想定避難訓練, 不審者対応訓練, 救命救急法訓練, 引き渡し訓練
交通安全教室・自転車教室の実施, 防犯講話, 危機管理マニュアルの充実と改善)

(3) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動の展開

(地域・地域人材活用, 地域行事への参加・地域貢献)

- (4) 学校評価や保護者アンケートを活かしたPDCAサイクルによる学校運営，教育方針の改善
(自己評価・学校関係者評価の実施，児童・保護者アンケートの実施，行事ごとの教職員や保護者アンケートと総括の実施)
- (5) 各種たより，HP，安心メールによる情報発信
- (6) 学校開放日，授業参観，学校行事への招待等教育内容の積極的公開
- (7) 学校評議員制度の効果的な活用とPTA や地域との連携協力
(地域ボランティアの活用，学校評議員会の開催，PTA 専門部の活動)

【評価方法】

児童，教職員に対して，アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は4段階になっている。

A：そう思う

B：ほぼそう思う

C：あまりそう思わない

D：そう思わない

の4段階で，このうちAとBは肯定的なプラス評価であり，CとDは否定的なマイナス評価である。

AとBのどちらを選ぶか，CとDのどちらを選ぶかについては，回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため，A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも，A・B合わせてのプラス傾向，C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が，全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで，各項目の回答に占める「A・B」の割合，「C・D」の割合を求め，

「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）

「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

1 第2回児童アンケート・保護者アンケートの考察

【児童アンケート】

1学期と比較し，差が見られた項目

質問内容	1学期の肯定的な回答	2学期の肯定的な回答	差
1 学校へ行くことが楽しい	94.3%	96.9%	+2.6%
2 進んであいさつする	90.0%	92.5%	+2.5%
3 係や当番，清掃	96.0%	98.6%	+2.6%
4 授業がわかる	95.3%	97.3%	+2.0%
6 発言や意見・質問	78.1%	76.6%	-1.5%
10 スマホ等の所有率	39.2%	44.1%	+4.9%

児童アンケートの結果で，10については大きな差が見られた。1，2，3，4については改善が見られた。他の項目はほぼ1学期と同様な数値であった。

【保護者アンケート】

否定的な回答が多かった項目

質問内容	肯定的な回答	否定的な回答
3 あいさつをしている	83.4%	16.3%
4 家庭学習の習慣	73.9%	22.6%

保護者アンケートの結果は、10項目のうち9つの項目で肯定的な回答が80%を超えており、概ね満足できる結果であった。あいさつについてはほぼ昨年度と差はなかった。家庭学習の習慣についてはさらに連携をとり、家庭の協力を得ながら進めていきたい。

児童1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校へ行くことが楽しい」については、すべての児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図り96.9%と1学期より2.6%の改善が見られた。コロナ禍で制限の多い生活様式で過ごす中であっても、児童が「学校は楽しい」と感じていることから、学校が居心地の良い場所になっていると思われる。しかし未だに3.1%の児童が否定的な回答をしている。児童アンケートや日頃の児童観察等から見取れるサインを見逃さず、児童理解を深め、一人ひとりの児童を大切にしていける教育をこれからも継続していきたい。

児童2の項目「あいさつがしっかりできている」について

保護者3の項目「きちんとあいさつしている」について

児童アンケートでは90%以上の児童が、学校や地域においてあいさつをしていると回答し、1学期より改善している。しかし、保護者アンケートでは「そう思う」が31.1%、「ほぼそう思う」が52.3%で、あいさつに対する物足りなさを感じ、児童との結果に開きがある。不審者対策もあり、見知らぬ人への関わりを持つことに抵抗があることも事実であるが、今後も保護者や地域と一体となってあいさつ運動への取り組みを続けていきたい。

児童4の項目「授業がわかりますか」について

児童6の項目「授業中に質問または意見を言いますか」について

授業がわかることについて、97.5%（1学期より2.0%アップ）と高い結果であった。これは、本年度の校内研究会において全職員で共通の課題としてとらえた、学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくりや学習スタンダードに基づいた授業実践、思考力・判断力・表現力を高めるための授業展開に取り組んできた成果の表れであろう。

しかし、発言をすることに対して、児童の肯定的な回答は78.1%から76.6%と1学期より1.5%低い結果であった。コロナ禍で、伝え合う学習が十分できなかったと思われる。また、高学年になるほど肯定的な回答が減っていくことが本校の課題の一つであり、今後も継続して発表する力を育成できるよう、授業改善に取り組んでいきたい。

児童7の項目「家庭で宿題や自主学習を自分から進んでしていますか」

保護者4の項目「家庭学習の習慣が身についている」について

児童アンケートでは、肯定的な回答が85.7%であるが、保護者アンケートでは73.9%となっている。「そう思う」は30.4%とアンケート項目の中でとても低い。家庭学習は保護者にとって大きな課題

となっていることがわかる。学校では、学びノートの取組の様子をお便りで紹介したりや家庭学習見守り習慣の内容を改善したり工夫してきた。各家庭にさらに浸透していくよう、学校と保護者との情報交換や、協力・協働がより一層求められる。

2 第2回職員アンケートの考察

【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

I 学校生活について

「進んであいさつをする指導に努めている」については、「そう思う」の割合が52.0%から66.7%に上がった。児童会活動を中心に、気持ち良いあいさつが人間関係を形成したり、一日のよいスタートになったりすることを実感できる呼びかけを行った成果も表れている。学校行事や日常の学年・学級の取り組みを通して、児童とともに「あいさつが当たり前ができる。」「あいさつが気持ちよくできる。」ことを創り上げてきた成果が表れたと感じる。マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、すべての児童がプラス評価になれるよう努めていきたい。

II 学習指導について

「児童を授業に集中させるための指導」では、「そう思う」の割合が「84.0%」であった。分かる授業の展開と児童の学力向上は、学校に課せられた最も大切な課題の一つである。若南スタンダードをもとにした授業展開や児童の考えをつなぐ発問などの工夫、TTの活用や2学期からの「学力向上スタッフによるTT」「きめ細か加配による少人数指導」の活用は効果的であった。「学校の授業がわかりますか」について否定的な回答をした5.8%の児童にしっかりと目を向け、校内で共通理解を計り、一人一人の授業改善を進めていきたい。

III 家庭学習についての質問

「家庭学習を定着させるための工夫」では、「そう思う」は76.2%であり、意識が高くなっている。しかし、児童の評価は大きな課題がみられる。家庭学習見守り週間の取り組みなど、保護者の協力は必要不可欠である。全校や学年・学級での取り組みをさらに進め、アウトメディア（テレビやゲーム、インターネットなど電子メディアを使わない時間を持つ）の取組と併せて、家庭学習の定着を進めていきたい。

IV 生徒指導について

不適応行動やオンラインゲーム等のトラブルなど、組織的に取り組まなければならない課題も見られた。その都度校長を中心とし組織として対応してきた。特に、不審者対応やネットトラブル対応については、南アルプス警察署生活安全課の協力のもと、全校に指導していただく機会を得ることができた。学級づくりの面では、居心地の良い学級をめざし、お互いの良いところを認め合う活動を仕組むことができた。

これからも諸問題の早期発見・早期対応に努め、これからも報告・連絡・相談を密に行い、管

理職・生指担当・コーディネーター等を中心とし、チーム若南として対応にあたっていきたい。

V 学校経営について

年度当初の分掌が機能しなくなってしまう、途中混同する部分もあったが、お互いにカバーし合い運用することができた。しかし、若干一部の教員の負担が大きくなってしまったように感じた。2学期の教育活動をふり返り、3学期はより明瞭な分掌で、縦と横の連携を十分に図り、児童の健全育成のために、一致団結して教育活動に取り組んでいきたい

VI 学校行事について

今年度はコロナウイルス対策で大変な中で、できることを模索しながら各分掌で工夫し、計画、実践し児童の心に残る行事が行うことができた。保護者アンケートでは、コロナ禍であっても、運動会など児童の様子を見る機会を持たれたことについてとても良い評価を得ている。安全面に気をつけながら、運動会・林間学校・修学旅行・各学年の校外学習ができたことはよかった。児童の生き生きとした姿を伝えることで保護者に学校生活の様子を理解していただけていると思う。

3学期の行事については、学校開放日や学年部会など、日程調整から計画・立案と各担当や教務主任との連絡調整を行い、早めに各家庭に周知することができた。行事の目的をしっかりと見据え、無理のない計画の中で取り組んでいきたい。

VII 校内研究についての質問

研究主任を中心に、計画的に校内研を行うことができた。各ブロックで「ICT教育」を含めた授業展開を進めることができた。児童の学ぶ姿を共有しながら、成果と課題を検証することで、今後の授業実践につながっていくであろう。校内OJTの様子も通信での紹介があり、若い先生の悩みや困り感を職場全体で共有できていた。特別支援教育における校内支援体制も機能していた。研究主任を中心に、これからも学び続ける教員として精進していきたい。

VIII 施設・設備・安全管理について

2学期も養護教諭、給食主任、教科主任から様々なコロナ対策についての新たな情報提供や保健指導の発信があった。熱中症対策とコロナ対策の両立ができたことは、安心安全面において大きな成果と言える。

通学路の一部には、交通安全を示すのぼり旗を立て、ドライバーへの注意を促してきた。安全点検や定期的な避難訓練・安全教育を通し、日頃から防犯・防災の意識を高める児童指導を行うことができた。しかしながら、災害はいつ起こっても不思議ではない。保護者や地域住民の協力も欠かせない。コロナ禍での避難訓練等、いろいろな場面を想定した取り組みを今後も行っていく必要がある。まず、見守りたすきの普及や小中連携なども含めて、地域で児童を見守る学校づくりを進めていきたい。

IX 学校と家庭との連携について

今年度は「新しい生活様式」の中、保護者・地域のご理解を得ながら、できる範囲で工夫して公開の場を設定することができた。先生方が保護者との信頼関係を築き、連携できたことは高く評価できる。管理職との細かな報告・連絡・相談が行えており、組織としての対応がしっかりとで

きたと言える。

3 まとめ

アンケート調査の結果を見ると、児童・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。また、1学期に行ったアンケートよりもプラス評価が増えた項目があり、一定の取組成果が感じられる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、課題となっていることがある。それらをまとめると、次のようなことになる。

【学校生活について】

○児童及び保護者アンケートともに「学校が楽しい」という回答が90%を超えている。2学期も感染予防のため「非接触型の授業」を余儀なくされたが、その中でも学習意欲の向上や基礎基本の定着を意識した授業づくり、日常の学級活動や縦割り班活動の充実、運動会や音楽鑑賞会、学年での校外学習などが、児童及び保護者の肯定的な意見につながっていると考えられる。これからも一人ひとりの児童にしっかりと目を向け、児童の活動を見守っていきたい。

【学習について】

○児童の「授業がわかる」や保護者の「基礎基本の定着」についての項目は、高い評価が得られた。一人ひとりの教職員の日々の授業改善が成果を上げている。今年度の研究で、ICTを活用した道徳やプログラミング学習などの提案もされ、教師自身も学び続ける姿勢を持つことができた。三角形の面積を求めるにはどうしたらよいかの問いに、児童同士で考え、答えを見つけていた。コロナ対策に配慮しながら「主体的・対話的」に学ぶ児童の姿に成長を感じた。

発言または意見を言うこととあわせて友だちの意見をしっかりと聞き学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表がおこなえる雰囲気のある学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。制限の多い環境でも、児童と教師が共に学び合う根幹は、これからも変わることなく進めていきたい。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大切な役割がある。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。コロナ禍で、生活習慣がメディア中心になってしまった児童もいる。日々の取り組みや、家庭学習の内容や方法を工夫し、家庭学習を充実させていきたい。学校の取り組みだけではなく、保護者の理解を深め今まで以上に協力を求めていきたい。

【生徒指導について】

○コロナ対策で行ってきたことは、健康管理と心の管理（いじめ防止）である。「困ったときには相談していいんだよ」というメッセージを児童に送り、児童の困り感に寄り添い、また、いじめの未然防止や早期発見につなげてきた。さらに、学校のきまりや約束を守ることの指導は、いじめや非行行動に対する未然防止や居心地のよい学校づくりにつながっていくと考え実践してきた。児童は学校生活の中でさまざまなきまりを守りながら社会性を身につけてきた。すべての教育活動を通して、困ったときには誰かに相談すること、きまりや約束を守ることの大切さについてより一層重点をおき指導にあたりたい。また学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で教育活動を進めていきたい。

今後取り組む重点項目

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような『居心地のよい学校づくり』を進める。

- ・児童会主催の行事や縦割り班活動，委員会の取組など，6年生を中心に，1学期にはできなかった活動ができた。学校行事においても保護者や地域の協力を得る中で，安心安全に配慮した活動が展開された。また各学年，学級における取組も一人ひとりの児童を大切にしたい内容で実施され，そのことが児童にとって楽しい学校につながっていった。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け，活動の振り返りを行っていくことに努力してきた。しかし，「学校へ行くことが楽しい」については児童・保護者とも否定的回答が数%存在している。この結果については謙虚に受け止め，今後も継続して一人ひとりの児童をしっかりと見ていきたい

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、『学び合う環境づくり』に努める。

- ・「主体的・対話的で深い学び」についてさらなる授業改善を図りたい。若南スタンダードについては，各クラスの中で定着が図られている。これからも授業の中で，発言する活動を今まで以上に取り入れていくことに取り組んでいきたい。
- ・個に対応することは，とても重要な課題であり同時に難しい課題でもある。2学期の課題を改善し，ティームティーティング（複数教員による授業）や「学力向上スタッフによるTT」「きめ細か加配による少人数指導」の活用を含め，一人ひとりにわかる授業の実現に向け，より一層の学び合う環境づくりを進めていく。

○『家庭学習』を充実させる。

- ・「家庭学習」については，保護者の課題が見られた。学校と保護者との情報交換や家庭での協力・協働についてさらに連携を深めていきたい。
- ・今後も冬休みから始めた「アウトメディア」の取組と併せ，家庭学習の充実を図っていく。

○『いじめは絶対に許さない』という毅然とした態度で指導にあたる。

- ・保護者アンケートからは，「学校のないじめのない学級づくり」に対し 92.9%の肯定的回答を得られた。小さな事案に対しても一つ一つ丁寧に取り組んできた結果と言える。これからもいじめのない学校づくり，居心地の良い学級づくりに取り組んでいきたい。